

研修報告

1. 研修報告書
2. 質問項目についての報告

氏名	岸田 まりな		印
所属大学	筑波大学	学部	システム情報工学研究科
学科	構造エネルギー工学専攻	学年	博士前期課程 2 年
専門分野	Civil Engineering		
派遣国	ドイツ	Reference No	DE-2018-3032-2
研修機関名	Mollmann Beratende Ingenieure GmbH	部署名	-
研修指導者名	Andreas Mollmann	役職	-
研修期間	2018 年 10 月 1 日 から 2018 年 12 月 21 日 まで		

【事務局使用欄】

受領日：

I. 研修報告書

1. 研修報告の概略を 1 ページ以内にまとめてください。

研修先は Frankfurt から電車で 30 分ほどの距離に位置する Darmstadt にオフィスを構える電気系統に関するコンサルティング企業であった。主に Frankfurt にある建物の見積書の作成、照明の計算などを行った。週に一度は現場に連れて行ってもらい、実際にオフィスで作っている書類と工事内容や建物の状況の確認を行った。

照明の計算は DIALux というソフトウェアを使った。自分で部屋の寸法や窓の位置、大きさなどを決めて部屋を作る。そこに照明メーカーの HP からダウンロードした照明のファイルを設置し、計算を行う。規格で目的に応じて最低限守らなくてはならない明るさが決まっているので、その値を満たしているか、また明るすぎることがないかの確認である。まず練習としてオフィスの私がいた部屋を計算し、次に実際にプロジェクトで必要な計算を行った。照明の具体的な位置が載っている設計図が他のプロジェクトメンバーと共有されている状態でもまだ計算が行われていないのが驚きだった。設計図を作るときに配置を決めるのは CAD のスタッフで照明の専門家ではない短時間勤務の経験であるが、おおよそ正しかった。たまに明るさに調整が必要な時があり、その時は建築上必要な条件である対称性を保った形で何通りか計算し、最適解だと思われるものを社長や社員の方に提案した。

見積書の作成は、クライアントの要求に応じて必要な項目を書きだして各項目に価格を割り当てて作成する。ドイツ語での作成なので、ドイツ語がほぼできない私にとっては内容の理解に非常に時間がかかった。最初に作ったものは社員の方にはほぼ全て修正されていたが、インターン中最後に作ったものは簡単な手直しだけで済むくらいに慣れた。

私生活では周りに外国人が少なかったためドイツ人の優しさに触れることができた。フラットメイトはどこへ行くにも私を誘ってくれた。また行先では必ずドイツ語の会話の中で私を取り残されないように英語で会話してくれたり、時々翻訳して内容を教えてくれたりした。日本人は親切だと聞いたことがあるが、私にとってはドイツ人も負けず劣らず親切な人々だった。

また休日に各地を旅行したときにはほぼ英語で事足りた。ドイツ人の特に若い世代の人々は皆英語が上手で特に癖のない英語を話す。街中のお店でも英語で話してくれないかお願いするとすぐにドイツ語から英語に変えて話してくれた。ただ、日本との違いで面白いと思ったのは日本人は比較的発音が苦手なのに対してドイツ人は単語が苦手なことだ。

インターン最終日に社員の方と一緒に Darmstadt のクリスマスマーケットに行ったのはとても印象に残っていることだ。仕事での付き合いはあるもののプライベートでどこかへ行くのは初めてだった。最後ということで、彼女から見たオフィスの事情を話してくれたが、これがインターン生活の答え合わせをしているようで楽しかった。また私と社長の距離が縮まった時の話、その他にもプライベートの話を 3 時間近くしていた。最も過ごした時間が長いであろう彼女と思う存分喋れてよかった。

インターンシップを通して研修内容である建物の電気系統のこののみならず、ドイツという国やそこに住んでいる人々についても学びがあった。私の中でのドイツは渡航前の漠然としたイメージから一変して具体性を持った。

2. 研修内容および派遣国での生活全般について 4 ページ程度で具体的に報告してください。

(研修日誌、テクニカルレポートや単位認定用のレポートの内容を含んだもの。写真もあるとよい。)

私の派遣先はドイツの電気系統に関する建物のコンサルティング企業であった。Darmstadt という Frankfurt の南にある街にオフィスを構える。オフィスで働いているのは社長、社員の方 1 人、短時間勤務の方 1 人、週 1 日勤務の学生アルバイトの方 2 人というこじんまりした会社であった。社長は Frankfurt にある高層ビルを建築する際に電気系統のチーフを務めた経験のある有能な方だ。現在のプロジェクトでは主に Frankfurt にある建物を扱っているが、München など他の都市にある建物のプロジェクトも取り扱うことがある。プロジェクトの中で私が携わった部分は、見積書の作成、照明の計算および提案、書類の確認、排水管の設計、雨どいの設計などである。また週に 1 回はプロジェクトの現場に連れて行ってもらう、工事の進行具合と内容の確認を行った。同じ敷地の別の建物で新たに見積書を作っているときにはその場所にも確認に行った。



オフィスの外観

まず最初に行ったのは基礎知識の構築である。インターン先の専門分野と同じ Civil Engineering を専攻していたが、Civil engineering の範囲は広く、私の研究分野と仕事で扱う分野は異なっていた。研究では河川環境や流量に関することを取り扱っているが、仕事では電気のことであるため、電気の内容に関する基礎知識の構築が必要であった。学生アルバイトの方が会社で働き始めたときに使っていた pdf のテキストを教えてくれた。工場やオフィスの部屋、廊下などそれぞれの場所と目的に応じて最低限守らなくてはならない明るさが定められており、それについての説明が主だった。また、照明は使用しているうちに劣化したり汚れたりして初期よりも明るさが減少するが、そのときにも定められた明るさを守るためには設置時に考慮する必要があるなどの記述もあった。

これを読みつつ、DIALux という照明計算ソフトの習得を行った。DIALux は自分で部屋の大きさや色、窓の大きさや位置、机などの家具の配置などを決めることができ、そこに照明を取り付けた場合の明るさを計算するソフトである。照明のデータは、大手メーカーからの商品であれば各照明メーカーのホームページからダウンロードすることができる。まず最初に練習としてオフィスの私が仕事をしていた部屋の大きさや窓の位置、机や棚を再現して、実際に使われていた吊るすタイプの照明 (suspended light) を DIALux 上で取り付けました。そこで机の上の明るさを計算した。測定値と計算値はほぼ一致するようで、もし大きく異なる場合は計算が間違っていると考えた方がよいと社長から伺った。照明は DILA タイプで照明の明るさが窓などの入射光に合わせて変わるタイプだったため、測定値は参考にならなかったが規格に近い値となりおおそ正しい数値であると判断した。そこである程度基礎的な操作の仕方を学んでからは、実際のプロジェクトで用いられている設計図を基にして照明の計算を行った。私には驚きだったが、設計図は完成しており、他のプロジェクトメンバーに既に設計図を送っている状態でもまだ照明の計算をしていなかった。照明の配置は建築上おおそ対称になっている必要があるという条件と短時間勤務の方の経験上の知識から配置を決めているようだ。ちなみに短時間勤務の方は土木や電気、照明の専門ではなく、CAD を使えるため設計図を描く担当として雇われていたようだ。2 年以上働いている彼女の知識は豊富で大体のケースで図面は正しかった。しかし所々明るすぎる部屋があった時には、代替案を考えるのが仕事だった。天井にはスプリンクラーや煙探知機、スピーカーが配置されているため照明を移動するのは困難で、同じ場所でワット数の違う照明に変えたり、照明を減らすなどするのが主な方法だった。それでも自分で納得いかないときは他の設置物と

重なっていないことを確認して場所を移動した場合のケースも計算して社長や社員の方に見せていた。そこで明るさの基準値と見比べて妥当であるものに関しては建築士の方を含めた会議で提案していたようだ。

他にも予算の見積書を度々作成した。Main Building という Frankfurt にある建物に関する見積もりが主で、借用に興味のあるテナントが Main Building の担当者を通して使用する際のフロアの俯瞰図とその他の要求を送ってくる。その他の要求とは、例えば廊下の壁はガラス張りにしてほしいとか WiFi スポットを 2 カ所設置してほしいなどといったことである。建物の現状と照らし合わせて必要な電気系統の工事をリストアップし、それに相当する金額を入れ、それぞれがオーナーによって支払われる項目かテナントによって支払われる項目かを判断して別々に算出する。もちろん見積書はドイツ語である。最初の頃は書いてある項目の意味も分からなかったうえ、一度受けた説明だけではあまりにも理解が追いつかなくて何とか仕上げた見積書もほぼ社員の方に修正してもらっていた。その頃は結局修正されるのであれば私のやっていることは無意味なのではないかと悩んだ。インターンであるにせよ滞在費を頂いて働いているのだから何か為になるようなことがしたいと考えてた。週に 1 件以上のペースで作成していたので 1 ヶ月経つ頃にやっと自分が何をしているか理解できるようになってきて、2 ヶ月経つ頃には floor tank (コンセントやデータ通信用のソケットがある床埋め込み式のタンク) の数の計算方法やおおよそ各作業項目がどの大見出しに分類されるかも分かるようになってきた。最終月にはその他の要求を考慮して見積書を作ることができ、社員の方が私のパソコン上で確認及び微修正をしてそのままクライアントに送ることができるようになった。総じて振り返ってみると自分自身の成長を感じる。

仕事以外については、休日はほぼ毎週旅行に行った。フラットメイトが IAESTE メンバーではないドイツ人で、ホームパーティーやクリスマスマーケットに連れて行ってくれた。もちろん IAESTE のメンバーとの交流もあった。

渡航後 1 ヶ月半ほどの間は毎週水曜日に IAESTE Darmstadt のミーティングに参加し、終了後にみんなで食事に行った。私が到着した直後は私の他にロシア人の派遣生がいたが、1 か月後に帰国してしまった。12 月にはインド人の派遣生が来た。どちらの派遣生の英語も癖が強く、私は聞き取るのが困難だったが IAESTE ローカルスタッフの方々は特に問題がないよう



旅行に行った Nurnberg の様子

うだった。インド人の派遣生は特に英語が堪能でかなり喋るのが速いので、何度聞き直しても聞き取れず IAESTE のスタッフの方に通訳してもらっており申し訳なく思った。学校で習うようなネイティブスピーカーの英語を聞き取る練習はもちろん必要だが、各地域で癖がある英語を聞く練習は実生活の上で非常に有効だと感じた。同時に、日本人の英語はどのように聞き取られているのか気になった。日本人もネイティブではないし、日本語にはない発音の違いやイントネーションが英語にはあるはずなので、海外の人は日本人の英語が聞き取りづらかったり変なイントネーションがあると感じていても不思議ではない。ドイツ人には何人かに聞いてみたが、発音というより言い回しが気になるようだった。それでも意味は分かるから特に問題はないと言っていた。言語の違いと同時にドイツ人の英語への適応力が高いと感じた。言語に関しては、ドイツ人の特に若い世代は非常に上手である。買い物に行っても私がドイツ語が分からないと分かった途端、流暢な英語をしゃべる。またフラットメイトもあまり英語が得意ではないと言っていたにも関わらず流暢だった。ただ単語は日本人の強みかもしれないと感じた。ドイツ人の発音は非常にきれいだが、単語がなかなか思い出せないことがあるようだった。日本ではむしろ単語は知っていても話せない、発音が苦手というのが全体

的な傾向だと感じているので、国によって得手不得手が違うのは面白いと感じた。

英語で生活できるのでドイツ語は中々成長しなかった。大学で一年や半年間留学に行った友達は皆その国の言語が話せるようになっていたので、渡航前はドイツに住めばドイツ語ができるようになるだろうと考えていた。加えて5年前のことであるが第二外国語はドイツ語を履修していたのでそんな苦なく習得できると考えていたが甘かった。数字を数えることはできたが瞬発性はないためレジで会計を言われた時の金額は聞き取れない。自己紹介くらいはできたが、自己紹介くらいであれば英語で十分である。結局できるようになったのは挨拶くらいだった。ラスト一週間くらいの時に社長から前のインターン生は帰る頃には電話でピザをオーダーできるくらいドイツ語ができるようになっていたと聞いた。しかしあと一週間だったのでさすがに今からでは遅すぎるのではないかと尋ねると、次の日から『美女と野獣』の物語をドイツ語で書いてあるサイトで音読練習が始まった。始めてから数日しか勤務日がなかったが、最初の一段落は何とか音読できるようになった。知っている単語が増えると何も分からなかった会話の中でもその単語だけ拾えるようになるのが興味深かった。ドイツに住んでいればいくらかでもドイツ語を耳にする機会があるので、文字と音と意味を繋げる作業を自分で行うと上達に近づくのだと感じた。

ドイツ人はとても親切な人が多いと感じた。日本人は親切だという一般論を聞いたことがあるが、私にとってはドイツ人も負けず劣らず親切だと思う。例えば街中で空気の入りが十分でない自転車に乗っていた人を見かけたら空気を入れた方がいいとわざわざ声をかけてくれる。リュックサックのチャックが開いていたらバスの中でわざわざ声をかけてきてくれる。オフィスでも短時間勤務の方は英語が得意ではなかったにも関わらず、自分の身の回りに起こった面白いことや大変だったことを身振り手振りで、時には翻訳アプリを使って伝えてくれる。英語で話そうとしていても途中からドイツ語になってしまうようなところに伝えたいという熱心さを感じた。日本では言語ができないとその時点で諦めてしまうような気がするが、彼女にはおそらく言語の壁は大した問題ではないのだろう。彼女の良さだと感じた。他にもフラットメイトがとても親切な人たちだった。一人は大学を卒業して就職活動中の子で、もう一人はその子の彼女だったが仕事は遠方なため週末にだけ帰ってくる生活だった。二人と一緒に一方の実家の周りで行われるマーケットに行くときには私を誘ってくれた。また、二人の大学時代の友達とクリスマスマーケットに行くときも一緒に連れて行ってくれた。まるで年の近いお姉ちゃん、お兄ちゃんのようにどこに行くにも、凝った夕食を作るときにも必ず声をかけてくれた。またどこかに行ったら必ずドイツ語が分からない私が取り残されないように適宜要約して通訳してくれた。最初の頃は英語で話したりするので気を遣わせていると思い、迷惑をかけていないか聞いたことがある。その時には全然そのようなことはないという返答で、その後も毎回誘ってくれるので好意に甘えてほとんど一緒について行った。もし日本人が沢山いる状況での海外留学だったら絶対に経験できないことだと思った。ドイツ人と一緒に暮らして、一緒に色々な所へ行ったり、夜は一緒に夕ご飯を食べながら日々あったことをしゃべって、ドイツの当たり前を肌で感じた。周りに日本人はおろか外国人はほぼいなかったのも、ドイツの常識の中で生活できたのが IAESTE としてドイツに行った特権だと感じた。Frankfurt などの大都市ではもっと派遣生の数も多いのかもしれないが、Darmstadt という大都市近郊の街だったというのも理由かもしれない。そのように温かいドイツ人に囲まれていたので Darmstadt にはまた是非帰りたいたいと思える第二の故郷のように感じられる。

帰国して 2 週間ほどたった今、最も印象に残っているのがインターン最終日のことである。私が作った照明計算をある程度区切りがいいところまで終わらせ、引き継いでから終わる必要があったため 19 時頃まで仕事をしていた。向かいで仕事をしていた社員の方も休暇に入る前に大方片付けておきたかったのか、同じ頃まで仕事をしていた。その後、社員の方の提案で二人で Darmstadt のクリスマスマーケットに行った。彼女から仕事をもらっていたので、仕事では彼女に最もお世話になった。更に Frankfurt に週 1 回行くときには彼女と一緒にいたのでその道中プライベートの話もした。歳も近く、個人的には気が合うと思っていたのだが、

なかなか仕事以外で出かけることはなかった。日本では人によっては仕事とプライベートでは付き合いを分けたがるので、ドイツでも同様かと思っていた。それは私の思い込みで、特に最終日だからというわけではなくたまたま仕事が終わった時間が同じだったから行かないかという誘い方だった。そこでは彼女から見たオフィスの状況話をしてくれた。私が薄々感じていたこともあるし、日頃不思議に思っていたことの謎が解けたりして答え合わせをしているようで楽しかった。一番驚いたのは私と社長の距離感の変化に気づいていたことだ。最初はほぼ社員の方からだけ仕事をもらってあまり社長と話をすることはなく、話をするときはいつも緊張していた。だが、11月に彼女が2週間休暇を取った時は社長に聞かざるを得ず、具体的な仕事の方法や内容を聞くためにたくさん社長と話をした。もともと社長は気さくでよくしゃべる方なので、いったん打ち解けてしまえば冗談も度々言う仲になれた。つまり彼女がいない2週間でかなり社長との距離が縮まったのである。このことを私が彼女に伝えたことは一度もないが、彼女は感づいており、ぜひともその話が私の口から出たことを社長に話したいとのことだった。その話を聞いた社長がどう反応するのかを見られないのは非

常に残念に思う。それほどオフィスの人間関係は良好だった。オフィスの話以外にもクリスマスの過ごし方や、彼女がアメリカに留学していた時の話、以前付き合っていた人の話など寒い中グリューワインを飲みながら話しているうちに気づいたら3時間ほど経過していた。おそらくこのインターン中で一緒に過ごした時間が最も長い彼女とゆっくり話した時間はしっかりと思い出に刻み込まれ、今までありがとうと伝えたときにはインターンの終わりを宣言したようで寂しく感じた。

総じて、この派遣を通して留学などではなく IAESTE で行く良さ、ドイツの良さ、建物の電気系統について多少なりとも学ぶことができた。渡航前はヨーロッパに憧れはあっても住んでみたいとは思っていなかった。

日本が一番だという井の中の蛙状態であった。しかしインターン先の希望として自分で国を選択しなかったのが味方して、ドイツについてよく知ることができた。私はこのプログラムを通して様々な人からたくさんの恩恵を受けたが、彼らにとっても私がインターンシップに行ったことで日本への理解が深まるなど何か影響を与えられていたら嬉しい。



IAESTE Darmstadt のメンバーと

Ⅱ. アンケート

以下の質問にお答えください。

A. 研修内容について

1. 研修内容は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(☒ はい・ ☐ いいえ)
「いいえ」と答えた場合、どこが違っていたか具体的に記述してください。
2. 就業時間は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(☒ はい・ ☐ いいえ)
実際の就業時間: 1日 (8) 時間
1週 (5) 日間; (月) 曜日から (金) 曜日
3. 研修先から支払われた“滞在費”は、現地通貨で週いくらでしたか。“滞在費”の内訳と日本円に換算した金額をあわせて書いてください。
週月単位: 現地通貨 (450€) 日本円 (¥60,000)
全支給額: 現地通貨 (1,215€) 日本円 (¥162,000)
4. 研修先から支払われた“滞在費”は、生活するのに十分なものでしたか。(☒ はい・ ☐ いいえ)
「いいえ」と答えた場合、何にいくらぐらい足りませんでしたか。
5. “滞在費”はどのように支払われましたか。(例: 現金手渡し・銀行振込・小切手等)
手渡し
6. 研修中の滞在先について、宿舍の形態、周辺地域の環境や治安について詳しく記述してください。
周辺は住居が多く、繁華街から徒歩で 15 分ほどの場所。治安は良好。
7. 研修中の滞在先(宿舍)から研修地までの通勤について書いてください。(交通の便・手段・費用等)
自転車で片道 20 分ほど。(悪天候あるいは自転車が故障しているときは) 徒歩。
8. 研修先での職場環境(人間関係)は良かったですか。(☒ はい・ ☐ いいえ)
「いいえ」と答えた場合、不満だった点を書いてください。
9. 研修において、何か特別なプロジェクトに参加しましたか。(☐ はい・ ☒ いいえ)
「はい」と答えた場合、参加したプロジェクトの内容を記述してください。
10. 研修において、あなたの語学力(O-form に記載されている Required Language)は客観的に見て十分だったと思いますか。(☒ はい・ ☐ いいえ)

B. 生活について

1. 研修以外の時間(勤務時間後や週末)はどのように過ごしましたか。

フラットメイトと会話を楽しむ, 旅行をする

2. 研修地で IAESTE 事務局主催の催しに参加しましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、参加したプログラムの内容とあわせて感想も書いてください。

現地のスタッフとハイキングに出かけたり, 食事会やビリヤードに参加したりした。現地の方々と交流を深めるいい機会になった。最も印象的だったのはドイツでクリスマスに伝統的に行われているクッキー作りを一緒にやったことで, 旅行や単なる滞在では経験できないことだと感じた。

3. 派遣国で、その国の伝統文化に触れるような機会がありましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、どのようなものに参加したか、感想も詳しく書いてください。

クリスマスマーケットに行ったり, ドイツ人宅のクリスマスパーティーに参加したりした。通常スーパーなどは日曜日は営業しないが, クリスマスマーケットは営業するほどドイツ人のクリスマスへの思い入れを感じた。

4. 派遣国の印象を、現地へ行く前と行った後のイメージの変化も含め、詳しく書いてください。

治安は日本より悪いイメージだったが, 特に Darmstadt は治安が悪いと感じたことは一度もなかった。滞在中, スリにあうこともなかった。またドイツ人は英語が上手だというイメージがあったが, どちらの方向でもイメージと違った。本当に上手な人は癖もなくきれいな英語をしゃべるが, 年配の方は苦手な方が多かった。

5. 研修国で、日本のことについて質問をされましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、特に印象に残った質問、面白かった質問、あなたが返答に困った質問などがあれば、それにどう答えたかも含めて書いてください。

日本人は牛乳が苦手だから牛乳は飲まないよね? と聞かれたときにはそのデマはどこから広がったのか分からないが, 少なくとも私はフラットメイトより牛乳の消費量が多いと伝えた。クリスマス時期には日本にもクリスマスの文化があるのか聞かれた。日本にもクリスマスはあるが, クリスマスだからというわけではないので celebrate よりも enjoy に近いと答えた。

C. IAESTE との連絡

1. 研修出発前、手続き上何か問題はありましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。

2. 派遣国への入国時に何か問題はありましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。

3. 派遣国到着後、宿舎ならびに研修先へ自分ひとりで行きましたか。(はい・いいえ)

「いいえ」と答えた場合、誰と行きましたか。

空港から街の中心街までは一人で行ったが, そこから宿舎までは派遣生と現地スタッフの方が連れて行ってくれた。研修先も一日目は現地スタッフの方が連れて行ってくれた。

4. 3で「派遣国の IAESTE 事務局」と答えた場合、IAESTE 事務局はどのように関与していましたか。

出発前から連絡を取っていたなど、分かる範囲で具体的に書いてください。

現地スタッフの方とは派遣前から連絡を取っており, 住居に関する希望などを聞かれた。到着後, どのように宿舎まで行くか, 誰が連れて行ってくれるかなどの連絡もあった。

5. 研修初日、研修先の受入準備体制は万全でしたか。(☒はい・☐いいえ)

「いいえ」と答えた場合、何に不備があったか書いてください。

6. 研修前から研修期間中、派遣国の IAESTE 事務局は、どのように関与していましたか。

研修期間中、問題が起こったときに適切な対応もしくは助言をしてくれましたか。

何か問題があり連絡をすればいつでも解決策を提示してくれた。例えば現地の IAESTE から通勤やその他私生活で必要であろうとのことで自転車を借りていたが、その自転車のタイヤが壊れたときには一緒に修理をしてくれた。その他にも祝日には一緒に近くにハイキングに行ったり、クリスマスには伝統であるクッキー作りを企画してくれたりした。

D. その他

1. 今回の IAESTE 研修を通して、最も良かったと思うことを書いてください。

ドイツ人が多い環境だったこと

2. 研修予定内容に関して事前に勉強をして行きましたか。(☒はい・☐いいえ)

「はい」と答えた場合、何を勉強し、どう役立ったかを書いてください。

「いいえ」と答えた場合、事前に勉強をしなかった理由を記述してください。

現場に近い研修の予定だったので、何を勉強したらいいか分からなかったため。また大学の研究が忙しかったため。

3. 研修終了時に、受入企業に研修レポート(Technical Report, Training Diary を含む)を提出しましたか。

(☒はい・☐いいえ)

4. 日本出国前に準備しておいたほうが良いと思われることを書いてください。

現地の言語の習得

5. 所持金やクレジットカード等、いくら・どのように持参されたか、また準備が十分であったかを書いてください。

クレジットカードは 2 枚持っていたが 1 枚しか使わなかった。ネット上ではドイツは現金社会でカードは使えないとあるが、スーパーや生活に必要な雑貨を売る店では問題なく使える。現金は 4 万円くらい両替して持っていた。電車などでは 20€以上の紙幣が使えないと聞いていたので細かい紙幣を中心に持っていた(実際は運賃が高くなれば 20€, 50€の紙幣も使用可)。1 ヶ月単位での滞在費の支給だったので 1 ヶ月目の月末は経済的に少し厳しかったが、カードを使えるのであれば現金は十分だと思う。

6. 日本から持参した物の中で、特に役に立ったもの、あるいは必要なかったものがあれば書いてください。

洗濯バサミがたくさんついた物干し用のもの(干す場所が限られているときに便利だった)。延長コード(変換プラグは 1 つしかないのので日本式のコンセントがたくさんさせると便利)。

ドイツ語の本(勉強しようと思ったがそんな暇はなかった)。

7. 来年以降、あなたが派遣された国へ、研修生として派遣される候補生に向けての助言を書いてください。

(研修のことだけでなく、語学面や生活面など、気が付いたことはできるだけ詳しく)

ドイツ人は英語が堪能なので、ドイツ語ができなくてもそれほど困りません。でも時にはドイツなんだからドイツ語で話さないと切符を売ってくれないというトラムの運転手もいました。やはり最低限のドイツ語

は覚えておいた方が安心だと思います。

街の大きさによって IAESTE の活動規模も異なると思いますが、案外簡単に一人旅ができてしまうので休日は自分で過ごし方を見つけるといいと思います。

私は最後まで慣れませんでした、日本よりも男女の壁が低いと感じます。異性だからという理由で行動が変わったりすることは少ないと思います。その習慣に慣れれば、その方が生活しやすいと思う面は多々ありました。

8. 研修前と研修後で、自身の専門分野や国際理解に対する考え方に、どのような変化がありましたか？

自分の専門分野については特に変化はなかったが、ドイツという国に対して理解は深まった。派遣前はヨーロッパは一括としてしか考えておらず、日本よりも治安が悪く、愛想がない国かと思っていた。治安に関しては過度に気をつけなければいけないほどではなかった。またとても親切で優しい国民性だと感じた。

9. 今回の研修に参加したことで、海外への留学に興味を持ちましたか？すでに興味を持たれていた方は、その気持ちに変化はありましたか？

既に興味を持っていたが、今回の派遣先であるドイツへまた行きたいという思いが強くなった。

10. 今後 IAESTE での研修を考えている学生の方々へ、メッセージがあればお書きください。

派遣生が多い地域であれば派遣生と仲良くなるのも手だし、自分で地元の集まりなどを探して友達を作るのもいいと思います。日本ではよく「恥ずかしい」と行動に踏み切れないこともあるかもしれませんが、それよりもやりたいと思ったことを素直に行動に移した方が楽しい生活が送れると思います。大変なこともあると思いますが、それも自分を成長に導く一ステップだと思って頑張ってください。